

5万人がみんな顔見知り

チーム：N&M

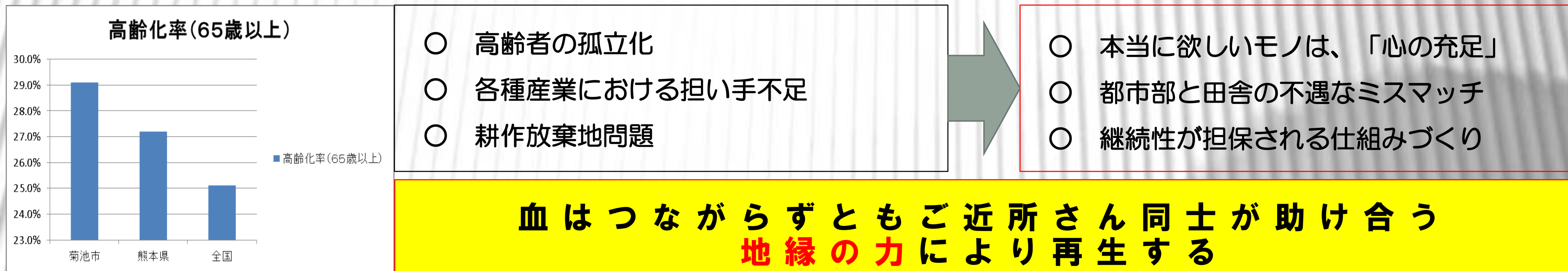
～人を、時間を、場所を、人生を、足りないものをシェアしあうまちづくり～

高齢者に、廃校になった小学校や地区の公民館などで、子育ての担い手として活躍してもらうことで、若い夫婦が、もっと地域に甘えてもいいんだと思えるような、ちょっとだけ昔の日本が持っていた地縁の「みんな顔見知り」を再生する。

そのために、農業をやってみたい就農希望の若者と、後継者不足に悩む農家をリンクさせ、経験・知識を継承するとともに、家族ぐるみでお世話になれる就農移住の仕組みづくりを行う。

これにより、高齢者の生きがいづくり・転入者の増・子育て支援の充実を目指し、菊池市においてよという意味を熊本弁で表した「**ヒヤーンナッセキクチ**」計画を提案する。

1. 現状



2. 提言

移住者を受け入れてくれる農家・商工業者をデータバンク化し、受け入れ先を確保。

移住者の先駆けである地域おこし協力隊が都市部で菊池市をPRし、移住希望者を募る。



名前：菊池 太郎（75歳）
家族構成：妻（73歳）
作物：米、ゴボウ、麦、野菜

人材を求める理由：高齢になり以前は栽培していた畑が余っているから

求める人材の条件：やる気のある方であればどなたでも！

PR：私の作物は無農薬で、まうごつ、うまかばい！
農業のノウハウを教えるけん一緒にがんばろう！

家族みんなできてはいよいよ。まっつてますばい。

元気な高齢者を活用し、公民館や廃校になった小学校跡地において、登録制の「子育て支え隊」が支援を行う。

- 子守り・遊び相手
- 学童のお迎えや帰宅後のお世話
- おかずの提供（1人分100円）



3. 効果

「行政」 働き盛りの若者・子ども人口の増
農商工業者の後継者不足問題の解決・生産性の向上
元気な高齢者の生きがいづくり、農業のノウハウの継承

「移住者」 ベテラン農業者がいる安心感
都会では味わえなかった心の充足感
地縁でつながる家族のような環境

「高齢者」 後継者不足問題の解消による生産性の向上
貴重なノウハウの後世への継承
地縁でつながる新しい子ども・孫

